

2022年8月4日

## 鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し バリアフリー設備の整備を着実に推進します

- ✓2030年度までに23駅62番線にホームドアを新たに設置
- ✓運行情報提供設備、視覚障がい者用設備などの設置を加速

西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:喜多村 樹美男)は、ホームドアをはじめとしたバリアフリー設備の整備を促進すべく、2021年12月に国土交通省により創設された「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用するにあたり、同制度に基づく料金設定および整備・徴収計画を定め、本日、国土交通省関東運輸局に届出を行いました。

お客さまからの薄く広い負担を得る鉄道駅バリアフリー料金制度を活用し、年齢や障害の有無に関わらず、全てのお客さまにとって安全・安心・快適なサービスの提供を目指し、ホームドアを2030年度までに23駅62番線に新たに設置し、2030年度末時点での総整備数28駅84番線を目指すなど、バリアフリー設備の整備を着実に推進してまいります。なお鉄道駅バリアフリー料金として、1乗車あたり10円を基本として旅客運賃に加算し、収受開始は2023年3月頃を予定しております。

### 1. バリアフリー設備整備に関するこれまでの取り組み

当社はこれまで、1日あたりのご利用者数10万人以上の6駅22番線(池袋駅・練馬駅・西武新宿駅・高田馬場駅・所沢駅・国分寺駅)へホームドアを整備しました。そのほか、1日あたりのご利用者数3千人以上の駅の段差解消や、ターミナル駅や他社線との乗換駅への運行情報提供設備の設置などを進めました。

※ご利用者数は2019年度実績

#### 主なバリアフリー設備の整備状況(2021年度末時点)

設備	整備状況※1	整備率※2
ホームドア	6駅22番線	9% (88%)
段差解消 (エレベーター・スロープ等)	85駅	93% (100%)
運行情報提供設備 (改札口付近ディスプレイ)	15駅	16%

※1 小竹向原駅を除く

※2 ()内の割合は、ホームドアについてはご利用者数10万人以上の駅(2019年度実績)に対する番線単位の割合、段差解消については、ご利用者数3千人以上の駅(2019年度実績)、および自治体が定めるバリアフリー基本構想の生活関連施設に位置付けられた2千人以上3千人未満の駅に対する駅数単位の割合



所沢駅ホームドア



運行情報提供設備(改札口付近ディスプレイ)

## 2. バリアフリー設備整備に関する今後の取り組み

### (1) ホームドア整備の拡大

ホームドアは、これまで整備を進めてきた1日あたりのご利用者数10万人以上の駅に加えて、10万人未満の駅の整備も推進します。今後、**2025年度までに6駅17番線、2026～2030年度で19駅45番線、合計23駅62番線に整備し、2030年度末時点での総整備数28駅84番線**を目指します。

※一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅(1駅)や、2021～2025年度と2026～2030年度の両期間にまたがって整備する駅(2駅)が含まれます。

### (2) ホームドア以外のバリアフリー設備

運行情報提供設備は、既整備駅への増設も含め、2023年度から2030年度末までの期間で合計60駅に整備します。

また、1日あたりのご利用者3千人未満の駅のバリアフリー化を進めるべく、スロープを整備し段差を解消するほか、内方線付き点状ブロックや視覚障がい者用設備(触知案内板・音声案内設備)の整備を進めます。そのほか、ホームと車両床面の段差解消、車両のフリースペースなどのバリアフリー設備の整備を進めます。

### バリアフリー設備の整備計画

設備	2021～2025年度※1	2026～2030年度※1
ホームドア※2	6駅17番線(6駅17番線)	19駅45番線(19駅45番線)
段差解消(スロープ)	2駅2カ所(1駅1カ所)	—
運行情報提供設備※3 (改札口付近ディスプレイ)	25駅(22駅)	39駅(39駅)
内方線付き点状ブロック※4	7駅13番線(3駅6番線)	1駅2番線(1駅2番線)
視覚障がい者用設備 (触知案内板・音声案内設備)	10駅(1駅)	9駅(9駅)
ホームと車両床面の段差隙間縮小 (ホームの嵩上げ)	4駅7番線(3駅6番線)	6駅17番線(6駅17番線)
車両のフリースペース	2編成10両(2編成10両)	14編成70両(14編成70両)

※ 半導体不足等の影響により、整備計画が変更となる場合があります。

※1 2021年度の整備数など、鉄道駅バリアフリー料金制度によらない整備を含む。

( )内が、鉄道駅バリアフリー料金制度を活用する整備予定数。

※2 一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅(1駅)を含む。

また、2021～2025年度と2026～2030年度の両期間にまたがって整備する駅(2駅)を含む。

※3 一部改札口整備済で未整備改札口へ整備する駅を含む。

また、2021～2025年度と2026～2030年度の両期間にまたがって整備する駅(1駅)を含む。

※4 内方線未整備ホームに内方線付き点状ブロックを新設する駅数および番線数を示す。

### 3. 鉄道駅バリアフリー料金制度の活用

今後のバリアフリー設備の設置改良に要する費用に加え、更新・維持管理費用も加えた総整備費は、2030年度までに約 550 億円を超える見込みです。これらバリアフリー設備の整備を推進するため、2021 年 12 月に国土交通省により創設された鉄道駅バリアフリー料金制度を導入することとし、本日、国土交通省関東運輸局に料金設定および整備・徴収計画の届出を行いました。

#### <料金設定の詳細>

当社全線のお客さまを対象に、**1乗車あたり10円を基本**として鉄道駅バリアフリー料金を旅客運賃に加算します。小児は、鉄道駅バリアフリー料金加算後の大人の半額となります。通学定期旅客運賃については、鉄道駅バリアフリー料金は加算しません。

**收受開始は2023年3月頃を予定**し、收受した料金はバリアフリー設備の整備費に充当します。制度導入前後における運賃・料金の比較は以下の通りです。

#### (1) 普通旅客運賃

営業 キロ	現行運賃		制度導入後の運賃+料金	
	1円単位 (IC)	10円単位 (きっぷ)	1円単位 (IC)	10円単位 (きっぷ)
1~4	147円	150円	157円	160円
5~8	178円	180円	188円	190円
9~12	210円	210円	220円	220円
13~16	242円	250円	252円	260円
17~20	272円	280円	282円	290円
21~24	304円	310円	314円	320円
25~28	346円	350円	356円	360円
29~32	377円	380円	387円	390円
33~36	409円	410円	419円	420円
37~40	440円	440円	450円	450円
41~44	471円	480円	481円	490円
45~48	503円	510円	513円	520円
49~52	534円	540円	544円	550円
53~56	566円	570円	576円	580円
57~60	608円	610円	618円	620円
61~64	639円	640円	649円	650円
65~68	682円	690円	692円	700円
69~72	712円	720円	722円	730円
73~76	754円	760円	764円	770円
77~81	786円	790円	796円	800円

## (2)通勤定期旅客運賃

営業 キロ	現行運賃			制度導入後の運賃+料金		
	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月
1~4	5,540円	15,790円	29,920円	6,140円	17,500円	33,160円
5~8	6,730円	19,190円	36,350円	7,330円	20,900円	39,590円
9~12	7,910円	22,550円	42,720円	8,510円	24,260円	45,960円
13~16	9,100円	25,940円	49,140円	9,700円	27,650円	52,380円
17~20	10,280円	29,300円	55,520円	10,880円	31,010円	58,760円
21~24	11,470円	32,690円	61,940円	12,070円	34,400円	65,180円
25~28	12,980円	37,000円	70,100円	13,580円	38,710円	73,340円
29~32	14,160円	40,360円	76,470円	14,760円	42,070円	79,710円
33~36	15,340円	43,720円	82,840円	15,940円	45,430円	86,080円
37~40	16,540円	47,140円	89,320円	17,140円	48,850円	92,560円
41~44	17,580円	50,110円	94,940円	18,180円	51,820円	98,180円
45~48	18,420円	52,500円	99,470円	19,020円	54,210円	102,710円
49~52	18,840円	53,700円	101,740円	19,440円	55,410円	104,980円
53~56	19,250円	54,870円	103,950円	19,850円	56,580円	107,190円
57~60	19,670円	56,060円	106,220円	20,270円	57,770円	109,460円
61~64	20,090円	57,260円	108,490円	20,690円	58,970円	111,730円
65~68	20,520円	58,490円	110,810円	21,120円	60,200円	114,050円
69~72	20,940円	59,680円	113,080円	21,540円	61,390円	116,320円
73~76	21,350円	60,850円	115,290円	21,950円	62,560円	118,530円
77~81	21,770円	62,050円	117,560円	22,370円	63,760円	120,800円

## (3)通学定期旅客運賃

鉄道駅バリアフリー料金は加算しません。

### 【参考】

#### 当社におけるバリアフリーに関するソフト面の取り組み

●駅係員や乗務員の「サービス介助士」取得

2004年度より「サービス介助士」の資格取得を進め、障がい者や高齢のお客さまにも安心してご利用いただけるよう取り組んでいます。

●「声かけ・サポート運動」の推進(2021年度は83社局7団体と連携して実施)

●2017年5月より西武線全駅(小竹向原駅を除く)でスマートデバイスを活用した「車いすご利用のお客さまご案内業務支援システム」を導入

●西武線アプリにて各車両の優先席、ドア数、車椅子・ベビーカースペースなどの設備の表示

●近隣特別支援学校の鉄道体験学習会への協力

◇お客さまのお問合せ先

西武鉄道お客さまセンター TEL.(04)2996-2888

音声ガイダンスのご案内により、メニューをお選びください。

[営業時間：全日 9 時～17 時(12/30～1/3 を除く)]

以 上

## バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	西武鉄道株式会社
---------	----------

整備方針	
全期間	・ホームドアを62番線に整備 ・運行情報提供設備を60駅に整備 ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進
2021～2025年度	・ホームドアを17番線に整備 ・運行情報提供設備を22駅に整備 ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進
2026～2030年度	・ホームドアを45番線に整備 ・運行情報提供設備を39駅※に整備（2021～2025年度整備駅との重複含む） ・内方線付点状ブロック整備、ホーム車両間段差隙間解消、車両フリースペース整備等を推進

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※1	0
年間徴収額 (百万円)	2,341 ※2		2,571	0
料金徴収 対象駅	全92駅			
備考	※1：1ヵ月600円、3ヵ月1,710円、6ヵ月3,240円 ※2：上記券種のほか、各種回数券、団体乗車券、貸切乗車券、企画乗車券、 各種特殊割引乗車券を含む			

※普通券の設定額については、大人1乗車当たりの料金を記載すること。

※定期券の設定額については、全ての定期券料金から算出した1乗車当たりの平均額を記載し、備考欄に各期間別（1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月など）の料金を記載すること。

※回数券や企画乗車券などの券種から徴収する場合は、備考欄に該当する券種名を記載するとともに、定期外の年間徴収額に該当する券種からの年間徴収額も含めて記載すること。

年間徴収額	4,912 百万円
徴収期間	8 年間（2023.3～2031.3）
総徴収額	39,296 百万円
総整備費	55,700 百万円
	2021～2025年度の計画： 15,521 百万円
	2026～2030年度の計画： 40,179 百万円

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2021.4～2026.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	6 駅 ※1      17 番線 ※1	8,435 百万円 ※2
スロープ	1 駅      1 ヶ所	50 百万円
内方線付点状ブロック	3 駅      6 番線	135 百万円
段差隙間縮小に資する設備	3 駅      6 番線	420 百万円
運行情報提供設備	22 駅 ※3	712 百万円
車両のフリースペース	2 編成      10 両	60 百万円
その他	1 駅 ※4	3 百万円
備考	※1：ホームドア新設駅数および番線数を記載（一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅を含む） ※2：既設ホームドア改良費および定位置停止装置整備費（地上整備・車両改修）を含む ※3：一部改札口整備済で未整備改札口へ整備する駅を含む ※4：その他：視覚障がい者用設備（触知案内板・音声案内等）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	各 駅      9 基	450 百万円
エスカレーター	各 駅      29 基	1,450 百万円
その他	各 駅 ※5	901 百万円
備考	※5：その他：運行情報提供設備（行先表示器含む）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	2,399 百万円	※6
収受システム改修費	6 百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	500 百万円	
備考	※6：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（行先表示器含む）等	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む）

計画期間内の整備費（(1)～(3)の合計）	15,521 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	17	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	1 駅
	二経路以上確保駅	0 駅

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2031.3）

整備内容		
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）		
設備名	整備数	整備費
ホームドア	19 駅 ※1                      45 番線 ※1	27,745 百万円 ※2
内方線付点状ブロック	1 駅                                      2 番線	25 百万円
段差隙間縮小に資する設備	6 駅                                      17 番線	1,190 百万円
運行情報提供設備	39 駅 ※3	270 百万円
車両のフリースペース	14 編成                                      70 両	315 百万円
その他	9 駅 ※4	27 百万円
備考	※1：ホームドア新設駅数および番線数を記載（一部番線整備済で未整備番線へ整備する駅を含む） ※2：既設ホームドア改良費および定位停止装置整備費（地上整備・車両改修）を含む ※3：一部改札口整備済で未整備改札口へ整備する駅を含む ※4：その他：視覚障がい者用設備（触知案内板・音声案内等）	
(2) 更新費（附帯費用含む）		
① 設備更新		
設備名	整備数	整備費
エレベーター	各 駅                                      31 基	1,550 百万円
エスカレーター	各 駅                                      43 基	2,150 百万円
その他	各 駅 ※5	1,062 百万円
備考	※5：その他：運行情報提供設備（行先表示器含む）	
② 車両更新		
路線名	整備数	整備費
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）		
維持管理費（附帯費用含む）	5,841 百万円	※6
収受システム改修費	4 百万円	※7
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	0 百万円	※7
備考	※6：ホームドア、エレベーター、エスカレーター、運行情報提供設備（行先表示器含む）等 ※7：2031年度以降の本制度活用は未定なため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用は、本様式には計上していない	

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	40,179 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数		
ホームドア設置番線数	45	番線
段差解消駅数	一経路確保駅	0 駅
	二経路以上確保駅	0 駅